

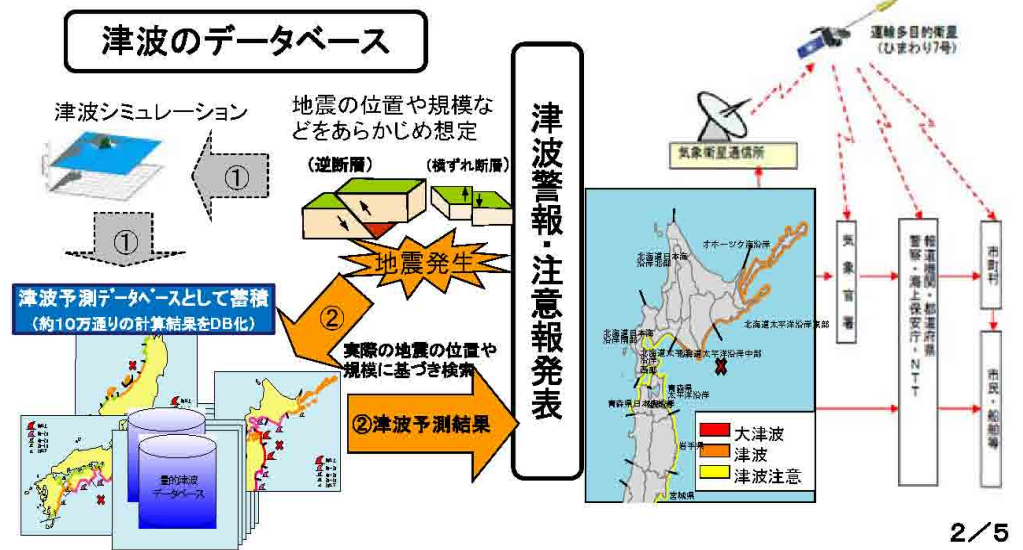
災害からの安全性向上に役立つ 科学技術(津波予測)

気象研究所 地震火山研究部 第一研究室
前田 憲二

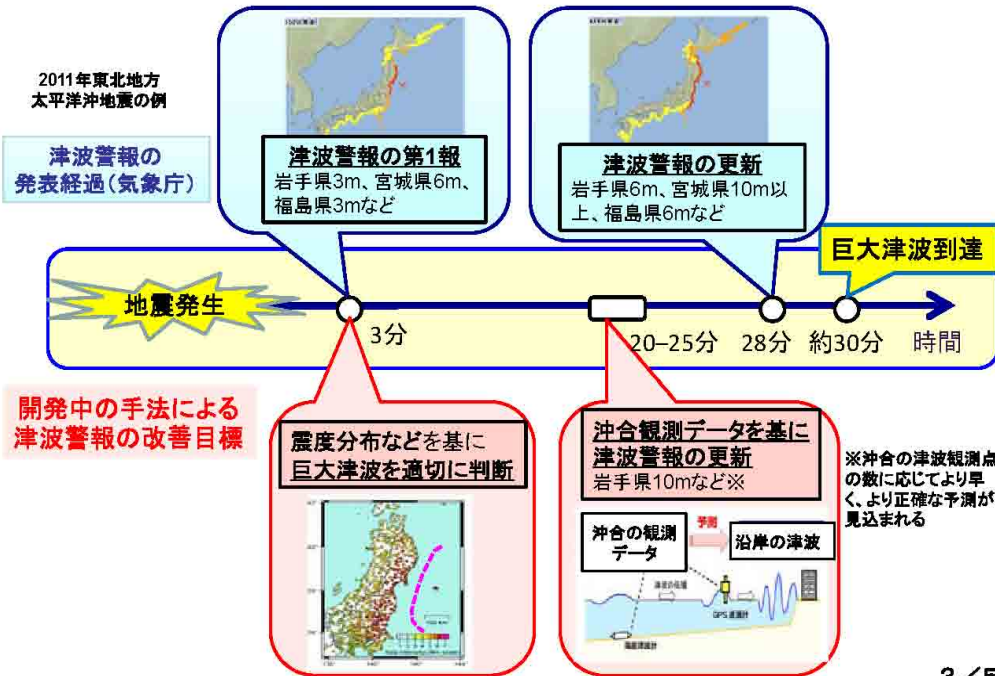
気象庁の量的津波予報システムの仕組み

- ① あらかじめ、震源の位置や地震の規模(マグニチュード)がさまざまな地震を想定し、津波シミュレーションを実施し、津波の高さなどの計算結果をデータベースとして蓄積
- ② 実際に発生した地震の震源の位置、マグニチュードに基づき、データベースから津波の予測結果を取り出し、それに基づいて津波警報・注意報を発表

津波のデータベース



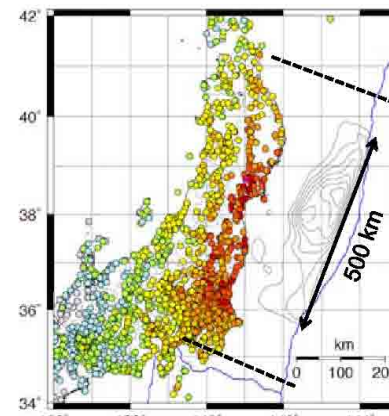
津波警報改善のための予測手法の開発



震度分布より地震の規模を推定する

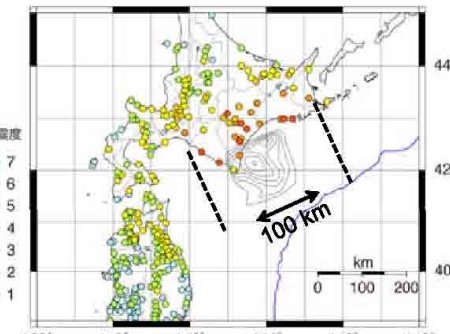
大きな震度の範囲→広 → 断層長→長 → 地震規模→大

2011年東北地方太平洋沖地震(M9.0)



計測震度および震源のすべり量分布
すべり分布はYoshida et al. (2011)による
コンター間隔は5m

2003年十勝沖地震(M8.0)



計測震度および震源のすべり量分布
すべり分布は吉田(2005)による
コンター間隔は1m